

第四回留学報告書

明石晃一

はじめに

セントアンドリュース大学医学部の明石晃一です。早いもので二学期も終わり、目まぐるしいスピードで丸一年が過ぎ去りました。現在は既に夏季休暇に入っており、日本には戻らずイギリスに残り、読書をしたり次の年度のプログラミングコンペティションに向けての練習をしたり、はたまたいつものようにピアノを弾きに行ったりして静かに暮らしています。以下、いつもの形式にて今学期の振り返りをします。

学習

前学期は、総じて医学における凡ゆるトピックのイントロダクションという色が強く、内容の統一性が薄いという点ではやや勉強計画を立てづらいという印象を受けましたが、今学期に入ってそれも変わり、一つずつのトピックを深く掘り下げていくスタイルにシフトした故、道筋が立てやすいと感じました。以下はそのうちいくつかの例です。

Orientation Week Semester 1	Week 4 Semester 1	Week 8 Semester 1	Week 12 Semester 1	Christmas Vacation	Week 2 Semester 2	Week 6 Semester 2	Week 9 Semester 2	Week 13 Semester 2	Week 16	
	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
Monday 20/03/2023	Free Time	Disorders of Growth and Differentiation	Chromosome and Chromosomal Abnormalities	Self Study	break		Self Study		Free Time	
Tuesday 21/03/2023	Free Time	Genetic Basis of Multifactorial disease	Carcinogene	Hip Knee Popliteal Fossa	break		Self Study		Free Time	
Wednesday 22/03/2023	Free Time	Self Study			break		Self Study		Free Time	
Thursday 23/03/2023	Free Time	Tumour Pathology	Coping	Mendelian Inheritance Workshop	Self Study	break	Knee and Hip Examination	Molecular Pathology of Tumours	Overview of Cancer Chemotherapy	Free Time
Friday 24/03/2023	Free Time	Self Study			break		Self Study		Free Time	

Orientation Week Semester 1	Week 4 Semester 1	Week 8 Semester 1	Week 12 Semester 1	Christmas Vacation	Week 2 Semester 2	Week 6 Semester 2	Week 9 Semester 2	Week 13 Semester 2	Week 16	
	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
Monday 20/02/2023		MD2002 MSA		Self Study	break		Self Study		Free Time	
Tuesday 21/02/2023	Free Time	Bones and joints of the lower limb	NSAIDs	Osteology: Lower limb	Self Study	break	Circulation and nerves of the lower limb	Self Study	Free Time	
Wednesday 22/02/2023	Free Time	Surface Anatomy of the Upper Limb	Self Study			break		Self Study	Free Time	
Thursday 23/02/2023	Free Time	Anaemia-presentation, diagnosis and	Gluteal region and thigh	Autonomic Receptor Pharmacology part 2	break	Haematology Data Interpretation Skills	Self Study		Free Time	
Friday 24/02/2023	Free Time	Communication Skills Workshop: Putting it Together	Self Study			break		Self Study	Free Time	

一枚目の週で言うと、腫瘍学やそれに絡めた遺伝学の内容が主となっています。二枚目の週は、下肢の解剖に関する内容です。学期全体で見ても、カバーされていたのは上記の解剖学や腫瘍学、遺伝学と血液学などが主であったように感じられました。このうちどの分野も別の分野との関連性を意識してモジュールが組みられているのか、ある講義で学んだ内容が別の時間の講義に登場するということが多々あり、自分の中で知識を立体的に構築することが出来たと思います。

試験はいずれも前学期の形式と同様であった為、対策も立てやすく効率的に学習に励むことが出来ました。セントアンドリュースの成績評価は1-20の20段階ですが、一学期が16、二学期が15とほどほどに悪くない成績をキープすることが出来、他のこととの時間のバランスも取れており、精神的に余裕のある生活を送ることが出来たと思います。

今学期学んだ内容は、比較的知識ベースで、短時間に多量の内容を頭に詰め込むというもので、学期を終え少し時間が経った時はそれらがしつかり定着しているのかということに些か不安を覚えました。夏季休暇に突入し医学関連の本を涉猟する中で「あっ！これ今学期やったやつやんけ！」ということが多々あり、それらの知識を文脈ベースで復習することが出来、結果として満足出来る学習成果を得られていると受け取っています（ここ最近だと、遺伝や白血病、麻酔等に関する書物を読みました）。読書そのものについては、医学とコンピューターサイエンス（主にサイバーセキュリティやアルゴリズム関連）のトピックを交互に読んでいるため、飽きることなく楽しく量をこなしています。

次にCSの話題です。今年の夏にソサエティの仲間たちと立ち上げた独自のプラットフォームであるSt Andrews Online Judgeにて、四月に賞金付きの大規模なコンテストを開催しました。たまたま開催日が四月一日になってしまい、告知をしても「本当か？」と疑われてしまい、釈明に時間を要しました。計十問を出題し、そのうちの八問の執筆を担当しました(<https://staoj.vercel.app/past-problems>)。ソサエティの規模も徐々に拡大していく一方、学期中は思ったより自分自身のスキルアップに時間を割くことが出来ていなかった為、夏季休暇を利用して一気に取り返していきたいと思います。来たる十月には、昨年出場したUKIEPCという全英大学リーグがあり、去年の結果も決して悪いと言うほどではなかったものの、今回はリベンジとして更にはるか上の順位を狙っていきたいと思います。またその次の北西ヨーロッパ地区予選も十一月に控えているので、大学代表チームの一員として、そちらでも実力を発揮できるよう力をつけていきたいです。

生活

勉強以外の多くの時間はやはり音楽の時間でした。実は医学部の同期の友人（ヴァイオリニスト）と共に、五月はじめにクラシックのコンサートを主催しました。

**SOLO MUSIC AT
ST ANDREWS**

ORGANISED BY ALDEN CHAU & KAY AKASHI



Kay Akashi (Pf) Alden Chau (Vn)
Arnav Bista (Pf) Stephanie Huang (Pf)
Euan Bond (Pf) Finlay O'Hara (Pf)
Ben Buckley (Pf)

02.05.2023
19:00 - 21:00
HOLY TRINITY CHURCH

CONCERT PROGRAMME

Arnav Bista (pf)	Liebestraum No.3	Franz Liszt
Kay Akashi (pf)	French Suite No.4 : I, II, III, V	Johann Sebastian Bach
Ben Buckley (pf) & Alden Chau (vn)	Träume	Richard Wagner
Euan Bond (pf)	Ballade No.1	Frederick Chopin
Kay Akashi (pf) & Alden Chau (vn)	Rondino on a Theme by Beethoven	Fritz Kreisler
* ° ° ° * : : ° ° ° * * INTERMISSION * * : : ° ° ° * * ° ° ° *		
Finlay O'Hara (pf)	Jingo Mélodie	Cristopher Norton Fanny Hensel
Alden Chau (vn) & Stephanie Huang (pf)	Violin Concerto No.1: I	Felix Mendelssohn
Kay Akashi (pf)	Piano Sonata No.11: I, III	Wolfgang Amadeus Mozart



これは本当にいきなりの医学部同期の友人からの提案で、自分はピアノはずっと個人で弾き続けてはいたものの、コンサートを自分で主催するなんてしたことがないし、人前でまともに演奏するのもおそらく小学校の卒業式で伴奏をしたくらいなのが最後だったので、最初は大いに腰が引けましたが、せつかくの機会なので挑戦してみることにしました。まさかプログラムやポスターまで自分で作るようになるとは。曲も当時練習中だったモーツァルトのピアノソナタをそのまま発表用として転用することになり、残りは高校時代に弾いていたバッハのフランス組曲、そして大急ぎでヴァイオリンとのアンサンブル曲としてクライスラーのロンディーノを仕上げました。結果は総じて大成功で、場所を貸してくださったセントアンドリュースの教会も大変美しいところで、夢のような経験をすることが出来ました。コンサート自体も大変好評だったので、今回は再び十月ごろに第二弾を開催予定です。次の演目はシューベルトのピアノソナタの他、前回と同じくカナダ出身のヴァイオリニストの医学部同期とクライスラーから何か一曲（未定）、スウェーデン出身の別の医学部同期の子とヘンデルの歌唱曲、そしてアメリカ出身で経済学専攻のフルーティストの子とはバッハのフルートソナタを演奏することになっており、現在進行形で練習を進めているところです。

最後に

この一年の経験は、学習の面でも生活の面でも人生の中で最も輝いているものであったと思います。どれを取っても、イギリスに渡る前の自分が想像しうる将来の可能性として感じていたものをはるかに超えており、そのような出来事が毎日のように起きている中立ちくらみがしております。イギリスの大学の医学部生として得られる学問の機会とその質は言うまでもなく別格であり、またその外でも映画の主人公のような経験が日常を彩っています。最後にはなりますが、このような夢のような経験への切符を下さった船井財団の皆様に、厚く御礼申し上げます。